

くらしと協同の研究所

## 2023年総会記念シンポジウムのご案内

本案内

- ◆日 程:7月1日(土) 13:00~17:20 シンポジウム  
リモート参加と会場参加の開催  
7月2日(日) 9:30~12:30 分科会  
リモート開催
- ◆会 場:京都テルサ ※申込締切:6月5日(月)

## 現代社会における食の価値を考える

—生活協同組合だからこそできる価値の伝え方、活かし方とは—

(開催趣旨)

暮らしをより良くし、持続可能な社会を創ることは、協同組合にとって重要な目的ですが、とりわけ、さまざまな場で食を取り扱う生活協同組合(生協)においては、食が有する多面的な価値を通じて目的を実現することが必要になります。ここで食の価値とは、栄養を摂り健康を維持することだけではなく、生産や流通に携わる人たちにも思いを馳せながら、人と人が繋がり、資源や環境・文化を保全し、食への理解を深めることによって人が成長する、といった多くの意味が考えられます。

このように私たちにとって身近な存在であり重要な役割を果たすはずの食ですが、それをめぐる状況は決して安心できるものではなく、さまざまな課題に直面しています。地球規模での人口増加に伴う不足が叫ばれ、気象変動や自然災害の発生により不安定な生産が続いています。また、新型コロナ禍による生産から流通、販売や消費に至るまでのフードシステムの混乱や、ウクライナとロシアとの紛争や円安等の影響による生産資材や食料品の価格高騰が、私たちの暮らしや社会を脅かしています。

本シンポジウムでは、こうした現代における状況のもとで、私たちは食の価値をどのように捉えればよいのか。そして、生協として、それをどう伝え、暮らしや地域社会のために活かしていけばよいのか。食と農の経済学を専門とする研究者の基調講演と、民間事業者および自治体による食を基盤とした実践報告をもとに、皆さんとともに考えます。

本研究所運営委員長 北川 太一(摂南大学)

## 主催:くらしと協同の研究所

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町258コープ御所南ビル4F  
TEL:075-256-3335 FAX:075-211-5037  
E-mail : kki@ma1.seikyuu.ne.jp (1は数字)

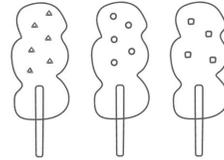
7月1日(土) 13:00～17:20 シンポジウム:京都テルサ 東館2Fセミナー室

○ 開会あいさつ 13:00～13:10

第1部 基調講演 13:10～14:10

「資本主義的食料システムの成り立ちとカラクリ」

平賀 緑 氏 (京都橘大学)



第2部 実践報告 14:20～15:40

報告1 「生産者と消費者を繋ぎ食の価値を伝える

『やさいバス』の取り組み」

加藤 百合子 氏

(株)エムスクエア・ラボ/やさいバス(株) 代表取締役社長)

報告2 「食の価値を活かした市民協働

－福井県小浜市の『食のまちづくり』を例に－」

中田 典子 氏

(福井県小浜市食のまちづくり課課長 御食国若狭おばま食文化館館長)

第3部 ディスカッション 15:50～17:10

コーディネーター 片上 敏喜 氏 (日本大学:本研究所研究員)

コメンテーター 青木 美紗 氏 (奈良女子大学:本研究所研究員)

則藤 孝志 氏 (福島大学:本研究所研究員)

コーディネーター まとめ 17:10～17:20

※第31回総会 17:40～18:10

くらしと協同の研究所への入会のご案内

くらしと協同の研究所は、個人会員と団体会員によって構成されており、常時会員を募集しております。詳細については、以下のQRコード・URLに記載しておりますので、ぜひご関心をお持ちの方にお声掛け下さい。

入会のご案内: <http://www.kurashitokyodo.jp/entry/>



- 会員になると、以下のご案内・活動情報等をお送りさせていただきます。
  - ・季刊『くらしと協同』(年4回発刊)が届けられます。
  - ・当研究所主催のシンポジウムやセミナー等の報告冊子等が届けられます。
  - ・当研究所および各研究会の発行物のご案内が届けられます。
  - ・公開の研究企画、講演会等のご案内がされます。
  - ・総会に参加し、研究所の活動や運営について発言・提案や自主研究会の開設を行うことができます。

7月2日(日) 9:30~12:30 分科会:リモート開催

## 第1分科会 「地域医療福祉と協同組合」

### －地域医療構想・地域包括ケアシステムと医療福祉事業の可能性－

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、地域住民の健康を守る医療・福祉施設とそこで働く従事者に対する信頼と期待を高めました。しかしまた、コロナ禍を通じて医療・介護施設の連携や役割分担の不徹底が露呈したとして、医療・介護提供体制の改革論議も加速しています。保健医療や介護・福祉事業を担ってきた協同組合もまた、地域住民の期待とニーズにしっかりと応えるために、政策動向に対応しつつも、協同組合としての強みを発揮することが求められています。

本分科会では、地域医療構想・地域包括ケアシステムの推進を柱とする近年の医療・介護政策をわかりやすく解説したうえで、保健医療生協の医療事業と市民生協の介護・福祉事業の課題と展望を実践の現場から報告します。地域における医療福祉の現状を理解し、協同組合による医療福祉事業の可能性を考える機会にしたいと考えています。

コーディネーター 高山 一夫 氏(京都橘大学:本研究所研究員)

報告Ⅰ:「医療・介護政策の方向性～地域に支えられる医療・福祉事業を目指して～」

鎌谷 勇宏 氏(大谷大学)

報告Ⅱ:「地域医療構想の現局面ー“切れ目ない連携”の実態」

眞木 高之 氏(松江生協病院 院長、全日本民医連副会長)

報告Ⅲ:「京都生協の介護事業～山積する課題と今後の展望」

金山 修 氏(京都生活協同組合 くらしサポート事業系統 統括マネジャー)

## 第2分科会 「現代における組合員のくらしの支え方を考える」

### －冷凍食品から考える「生協らしい」商品との向き合い方－

日本の冷凍食品の国内生産額はコロナ禍の巣ごもり消費の追い風もあって、2021年は過去最高となる7,371億円を記録しました。生協も冷凍食品とはかかわりが深く、日本冷凍食品協会によれば、冷凍食品の主な購買先として、生協を含む宅配事業も約20%のシェアを持っています。生協組合員意識調査でも、冷凍食品の主な購入先で生協がトップとなるなど、組合員は生協を通じて冷凍食品を利用している様子が伺えます。

しかし、かつて冷凍食品は“手抜き”の代名詞のように捉えられ、批判的に見る向きも決して少なくありませんでした。現在では、メーカーの企業努力と技術革新による品質向上を背景に、とくに単身・共働き世帯の若年層を中心に高く評価されています。現代の組合員のくらしを知り生協の役割を考える上で、なぜ冷凍食品が支持されるのか、生協組合員が評価する冷凍食品とは何か、という問いは重要な意味を持つのではないのでしょうか。

2018年から続く、生協と取引先のかかわりをテーマとする分科会として、今回は「冷凍食品」という現代だからこそその商品を通じて、いま組合員のくらしを支えるのに必要なこと、さらに生協らしい商品との向き合い方等を考える企画にしたいと思います。

コーディネーター 加賀美 太記 氏(阪南大学:本研究所研究員)

報告Ⅰ:『食卓に幸せをはこぶ』～家庭用焼成冷凍パン～

清川 秀樹 氏(㈱アンデルセン・パン生活文化研究所 執行役員)

報告Ⅱ:「冷凍めんの普及と『長崎風ちゃんぽん』」

澤田 卓士 氏(株式会社キンレイ 営業部 部長)

報告Ⅲ:「いろんなコバラにありがとう 焼おにぎり」

飛田 大輔 氏(株式会社ニッスイ 特販営業第二部生協営業課)